

## ピアノが私に教えてくれたこと

桑野小学校 渡邊 さん

みなさんは、何か一つのことに、ひたむきに打ち込んだことはありますか。私はこの夏、初めてその経験をしました。

私は、三歳の頃からピアノを習っています。幼い時から音楽が大好きだったため、両親が習うことを勧めてくれました。ピアノを弾くことは、私にとってとても楽しいことでした。だから日々の練習を、私は、きちんとやってきたつもりです。しかし、この夏、私にとって大変なことが起こりました。

私は五月に東北青少年音楽コンクールというピアノのコンクールに出場しました。そこで優秀賞を取り、本選に出ることになってしまったのです。正直私は、嫌で仕方がありませんでした。なぜなら、これ以上、コンクールのために何かをしたくない、と思ったからです。そもそも私は、人前で発表することがあまり好きではありません。コンクールも演奏の上達に必要なだからと、母やピアノの先生に勧められて、しぶしぶ出場していました。私はどんな発表の場でも、自分なりに上手に弾ければ満足できていたし、他の人の評価など気にしたことはありませんでした。だから、本選出場が決まっても、まったく嬉しくありませんでした。

しかし、本番が近づくとつれ、私は少しずつ焦るようになってきました。

「本当に自分は、今のままでいいのか…。」

気持ちが前向きにならないため、それに応じて、曲の仕上がりもいまいちであることを感じていました。だから、本番の舞台に立った自分を想像した時、自分の思い描くような演奏ができるとは、まったく思いませんでした。そしてそんな自分が、情けなくなりました。

「せっかく与えてもらった機会を台無しにはしたくない。結果などどうでもいいから、舞台に立ち演奏を終えた時、自分が満足できたと思えるような演奏だけはしたい。」と思いました。その時はじめて私は、自分から本選の舞台に立ちたい、と強く思いました。

それからの私は必死でした。毎日数時間の練習に加え、レッスンは週4回ほどになりました。なぜこんなに忙しい思いをしなければならないのかと、イライラして家族や先生にあたることも多々ありました。しかし、自分で「やる」と決めたのだから、できる限りのことはやろうと、とにかくピアノに打ち込みました。そして、そんな私のことを、家族も先生も、みんながおうえんしてくれました。

いよいよ本番、呼名され舞台へ進み、私はピアノの前に座りました。ほどよい緊張感の中、演奏がスタートしました。私の指は、いつものとおりすらすら動いていきます。曲はたった二分程しかありませんが、私はその時間を思いっきり楽しみました。そして演奏を終え、おじぎをした時、今までに感じたことのない、達成感を初めて味わうことができたのです。結果発表、なんと私は最優秀賞をとることができました。賞を取ることなど全く考えていなかったため、正直、私はとても驚きました。もちろん最高の賞をもらえた事はうれしかったのですが、それ以上に、やりきることのできた達成感で、私はいっぱいでした。

達成感、それは自分がどれだけその物事に打ち込むことができたかによって変わってくるのではないのでしょうか。いろいろなことに悩むことも、決して無駄ではありません。そして結果がどうであれ、その家庭こそ、人を大きく成長させることができる、ということを私は初めて知りました。

私は、ピアノでプロになりたい、とは考えていません。しかしこの経験は、ピアノにかかわらず、これからの私の人生において、絶対に生かしていけると思います。来年は中学生、様々な壁にぶつかることもあることでしょう。そんな時、何か一つのことに打ち込み、やり遂げることができた、この自信を胸に、私は常に歩み続けていきます。

